

企業短期経済観測調査（道北<sup>\*</sup>地域分）  
（調査対象企業数：道北<sup>\*</sup>40社）

※上川、宗谷、オホーツク総合振興局管内  
回答社数構成比 %ポイント  
( )内は前回調査時予測

（判断D. I.）

	2022/3月	6月	9月	12月	2023/3月	6月	2023/9月 までの予測
業況判断 < 良 - 悪 >	-3	8	3	0	2	(-5) 8	0
うち製造業	25	50	38	25	13	(13) 12	0
非製造業	-9	-3	-6	-6	0	(-10) 6	0
国内での製商品・サービス需給 < 需要超過 - 供給超過 >	-10	5	5	-10	-18	(-23) -12	-13
製商品在庫水準 < 過大 - 不足 >	-17	-10	-7	3	3	3	
生産・営業用設備 < 過剰 - 不足 >	-5	-8	-5	2	-2	(-5) -2	-5
雇用人員 < 過剰 - 不足 >	-37	-46	-53	-45	-45	(-58) -48	-60
資金繰り < 楽である - 苦しい >	15	18	12	15	12	18	
金融機関の貸出態度 < 緩い - 厳しい >	18	22	19	17	17	17	
借入金利水準 < 上昇 - 低下 >	10	6	3	5	6	(21) 3	8
販売価格 < 上昇 - 下落 >	23	28	20	30	30	(42) 27	27
仕入価格 < 上昇 - 下落 >	55	74	63	68	60	(68) 55	60

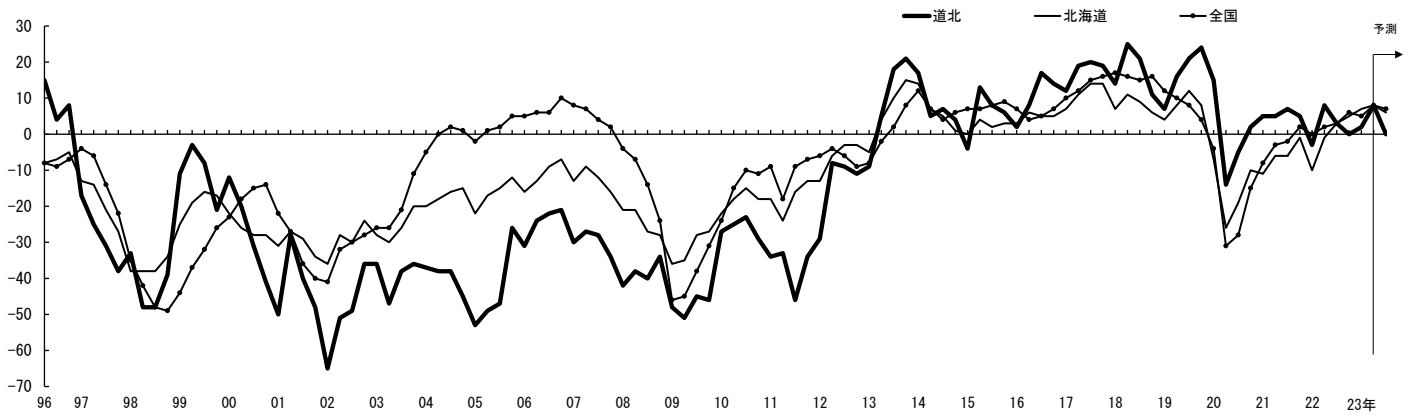
（事業計画）

全産業、前年度比%、  
< >内は前回調査比修正率%

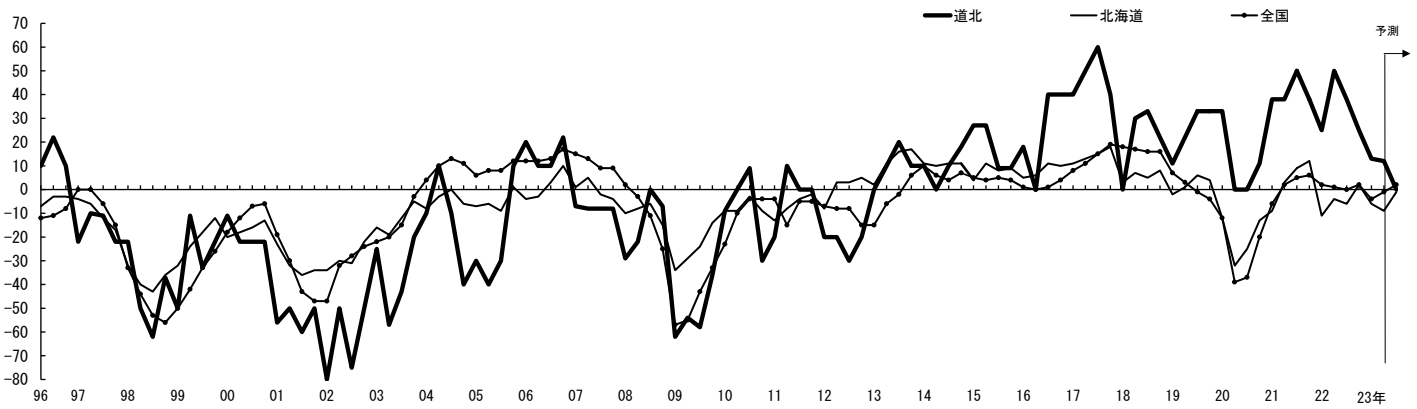
	2021年度実績	2022年度実績	2023年度計画			
			上期		下期	
売上高	6.0	5.8 < 0.6 >	-4.1 < -0.2 >	-3.9 < -0.9 >	-4.3 < 0.4 >	
経常利益	69.4	-20.3 < 0.1 >	-22.7 < -5.6 >	-38.6 < -3.7 >	-3.9 < -6.9 >	
当期純利益	16.0倍	-28.3 < -4.9 >	8.9 < -9.4 >	-3.6 < -9.6 >	21.6 < -9.2 >	
設備投資額	-45.8	14.1 < 3.0 >	10.0 < 7.2 >			

2023年6月短観・調査結果

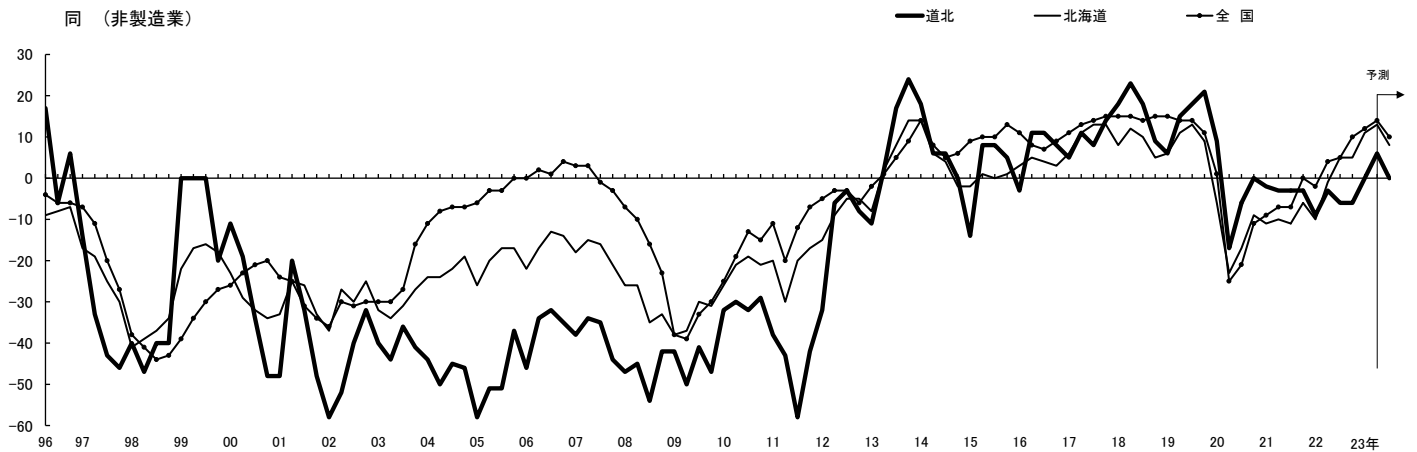
業況判断D. I. (「良い」-「悪い」、%ポイント)



同 (製造業)



同 (非製造業)



(注) 道北は、上川、宗谷、オホーツク総合振興局管内。

## 道北地域の企業短期経済観測調査結果（2023年6月）の概要

- 調査対象企業数：道北地域 40 社（製造業 8 社、非製造業 32 社）
- 回答率 100.0%（有効回答社数 40 社）
- 回答期間：2023年5月29日～6月30日

### 1. 業況判断 DI

- 6月の業況判断 DI（全産業ベース、DI：%ポイント<以下同じ>）は、+8 と前回3月調査に比べて改善した（前回+2、前回比+6）。
  - 製造業の業況判断 DIは、+12 と前回調査比悪化した（前回+13、前回比-1）。
  - 非製造業の業況判断 DIは、+6 と建設、不動産が改善したことから、前回調査比改善した（前回0、前回比+6）。
- 先行きの業況判断 DIは、悪化を見込み、0との予測（2023年9月までの予測：+8⇒0）。
  - 製造業は、悪化する見込み（+12⇒0）。
  - 非製造業は、建設、対事業所サービスが悪化を見込むことから、悪化する見込み（+6⇒0）。

### 2. 各種判断 DI

- 「製商品・サービス需給判断 DI<需要超過-供給超過>」（-18⇒-12）は、卸・小売が需要超過となったほか、宿泊・飲食サービスが供給超過を解消したことから、全体では供給超幅が縮小した。先行きは、供給超幅が拡大する見通し（⇒-13）。「製商品在庫水準判断 DI<過大-不足>」（+3⇒+3）は、各業種とも動きがなく、横這い。
- 「生産・営業用設備判断 DI」<過剰-不足>」（-2⇒-2）は、建設関連が不足超過に転化したものの、個人消費関連が不足超過を解消したほか、宿泊・飲食サービスが過剰超過となったことから、全体では横這い。先行きは、建設が不足超幅を拡大することから、全体では不足超幅が拡大する見通し（⇒-5）。
- 「雇用人員判断 DI<過剰-不足>」（-45⇒-48）は、対事業所サービスが不足超過を解消したほか、製造業、卸・小売が不足超幅を縮小したものの、不

動産が不足超過となったほか、建設、運輸、宿泊・飲食サービスが不足超幅を拡大したことから、全体では不足超幅が拡大した。先行きは、対事業所サービスが不足超過となるほか、製造業、建設、卸・小売が不足超幅を拡大するため、全体でも不足超幅が拡大する見通し（⇒-60）。

- 企業を取り巻く金融環境についてみると、「資金繰り判断 DI<楽である-苦しい>」（+12⇒+18）は、「楽である」との回答先が増え、「苦しい」との回答先が減ったため、楽である超幅が拡大した。「金融機関の貸出態度判断 DI<緩い-厳しい>」（+17⇒+17）は、横這いとなったほか、「借入金利水準判断 DI<上昇-低下>」（+6⇒+3）は、上昇超幅が縮小した。
- 「仕入価格判断 DI<上昇-下落>」（+60⇒+55）は、不動産が上昇超過となったほか、運輸が上昇超幅を拡大したものの、製造業が上昇超過を解消したほか、建設、宿泊・飲食サービスが上昇超幅を縮小したため、全体でも上昇超幅が縮小した。先行きは、卸・小売が上昇超幅を縮小するものの、製造業が上昇超過となるほか、建設が上昇超幅を拡大するため、全体でも上昇超幅が拡大する見通し（⇒+60）。「販売価格判断 DI<上昇-下落>」（+30⇒+27）は、不動産、建設関連が上昇超過となったものの、建設、個人消費関連、宿泊・飲食サービスが上昇超幅を縮小したことから、全体では上昇超幅が縮小した。先行きは、運輸が上昇超幅を拡大するものの、建設関連が上昇超幅を解消することから、全体では横這いとなる見通し（⇒+27）。

### 3. 事業計画

- 2022 年度の実績は、売上高は前年度比 5.8%、経常利益は同-20.3%、当期純利益は同-28.3%で着地。設備投資額は同 14.1%となった。売上高、経常利益、設備投資額は前回調査比で上方修正された一方、当期純利益は下方修正された。
- 2023 年度の計画は、売上高は前年度比-4.1%、経常利益は同-22.7%、当期純利益は同 8.9%、設備投資額は同 10.0%となっている。売上高、経常利益、当期純利益は下方修正された一方、設備投資額は上方修正された。

以 上